

実用新案公報

⑭ 公告 昭和49年(1974) 4月 9日

(全 2 頁)

1

⑮ 差込みプラグの電源表示板

⑯ 実 願 昭 43-111347

⑰ 出 願 昭 43(1968) 1.2月20日

⑱ 考 案 者 伊藤誠司

東京都大田区西六郷3の26の11

電気音響株式会社内

⑲ 出 願 人 電気音響株式会社

東京都大田区西六郷3の26の11

図面の簡単な説明

第1図は本考案電源表示板の平面図、第2図は差込みプラグを包む表示板の説明図、第3図は電源表示板で包む差込みプラグの斜視図である。

考案の詳細な説明

本考案は電子機器を電源に接続するに際し、使用電源を確認させる電源表示板に関する。

一般に、電子機器の電源差込みプラグは裸になつてゐるため、使用電源を確認することなく、コンセントに差込むものである。しかしながら、20 電源には周波数(50サイクル或は60サイクル)の相違や電圧(100ボルト、117ボルト、240ボルト)の相違があるため、電源を確認しないで使用した場合、電子機器の故障の原因となるものであつた。

本考案は電子機器の電源差込みプラグに電源表示板を取付け、プラグを電源コンセントに差込むとき、使用者に電源の確認を強制的に喚起せしめる電源表示板を提供することを目的とする。

以下本考案実施例を図面により説明すると、電30 源表示板1は1枚の平板から出来ていて、3つに折畳むようになつてゐる。表示板1の長手方向の一端は長手方向に伸びるスロット2によつて左右に等幅に分割され、スロット2の終端部分4から

2

内側に折曲げる。

即ち、第2図に示すように、差込みプラグ5のコード6をスロット2に挿入し、分割片3, 3を矢印7の方向に折曲げて、プラグ5の上にくるよ5 うにする。表示板1の低部8は分割片3, 3より僅かに長く、またプラグ全体の長さより僅かに長くなるように点線部分9で表示面部10を折曲げる。この表示面部10は、第2図に示すように、矢印11方向に折曲げて、分割片3, 3の上に重10 ねる。即ち第3図に示すように、差込みプラグ5を分割片3, 3、低部8、表示面部10によつて包囲するものである。この状態で、表示面部10の突出部12に矢印13を印刷し、Aの部分に周波数と電圧を表示し、底部8のBの部分に検査合15 格を表示する。プラグ5に表示板を取付けた後、再び電子機器を検査するときは、両側からプラグ5を注意深く引出して行いが、一般に使用者が使用するとき、表示面部10を分割片3, 3に接着剤或はホチキス等の手段によつて固定した部分を剥がし、表示板1を差込みプラグ5から分離せしめる。

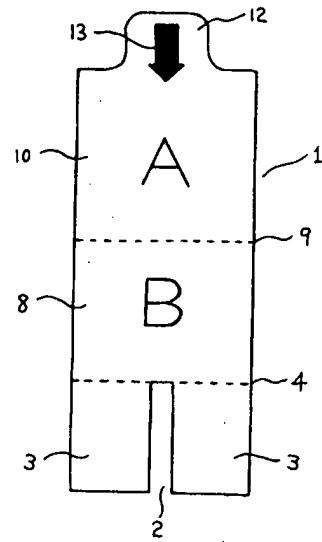
この強制的な作業による心理的負荷を加えることにより、矢印13で示す電源表示を確認する注意を喚起するものである。

25 本考案は上述の如く、差込みプラグを電源表示板で包むものであり、電源表示を確認することによつて、使用者の不注意による電子機器の故障を除くことと出来る。

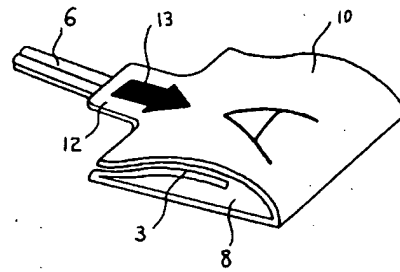
⑳ 実用新案登録請求の範囲

電子機器の電源差込みプラグを、平板を用いて側面を開放するように包囲せしめ、該平板表面に前記機器の使用電源を表示して成る差込みプラグの電源表示板。

第1図



第3図



第2図

